

# ようこそ江戸城へ(江戸城天守再建に向けて)

いまさら聞けない江戸城のこと、会員になってまもない方、入会されるのに躊躇されている方、仲間を誘ってどうぞご覧ください。

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| ①はじめに(関東連れ小便)  | ⑨歴史的建造物再建へ      |
| ②江戸城と太田道灌      | ⑩天守閣に込められた日本の匠  |
| ③家康が入府したころの江戸  | ⑪江戸城天守を再建するために  |
| ④江戸の3つの天守閣     | ⑫政府の取り組み        |
| ⑤明暦の大火         | ⑬世界各国への外国人訪問者数  |
| ⑥保科正之の英断       | ⑭コロナ収束後に行きたい国とは |
| ⑦江戸城再建の時節到来    | ⑮歴史まちづくり再生ゾーン   |
| ⑧世界の大都市のモニュメント | ⑯まとめ(夢・お願い)     |

**認定NPO法人江戸城天守を再建する会**

---

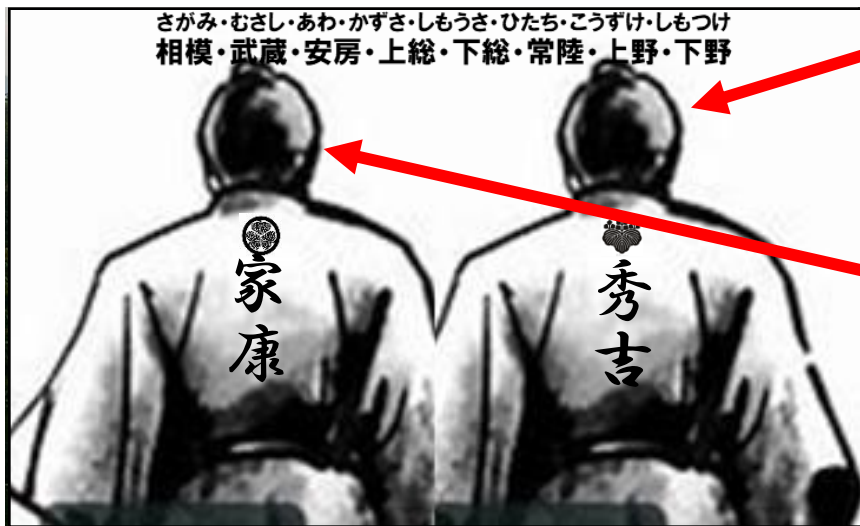


**当講話は私たちの活動に賛同し  
これから一緒に取り組みたい方々に  
再建に向けての基本コンセプトをご提供します**

# 1. はじめに (関東連れ小便)

2:04  
4代氏政  
弟氏照  
弟氏規  
5代氏直

●大河ドラマ「真田丸 (2016)」で話題になりましたが、石垣山城の「関東連れ小便」、真偽の程は別にして、滅亡間近の北条の小田原城を眼下に！



●秀吉:「関八州をやる代わりに江戸に移ってもらうから。駿河や三河はもういらんだろ？」

●家康:「はあ？」

つまり連れ小便の最中に「国替え (移封)」を命令されたわけです。自分の領地に基盤を築いている家康にとって、

決して喜ばしいことではありませんが、秀吉にしてみれば領民ともども強い結束力のある徳川の勢力を衰えさせ、しかも、自分が拠点としている京都・大坂から更に遠ざける狙いもあったと思われます。 “しかし、

●150万石の家康が250万石の領地を得たことは、秀吉亡き後の歴史に大きく影響することになりました。**※世界の大都市東京は誕生しました。**



# 2. 江戸

スケアキ

尚、道灌は上杉定正に伊勢原の館に呼ばれ謀殺されることになりました。そして1年後、先程の小田原北条が関東を支配することに！



太田道灌十八代子孫

NPO法人太田道灌顕彰会理事長  
NPO法人江戸城天守を再建する会  
会長 太田 資 暁





# 3. 家康が入府したころの江戸

当初家臣達は  
小田原か鎌倉  
と思っていて、  
びっくり!!

※豊前(今の福岡県)

道灌が江戸(1457年)に入ってから133年!

①東海道②中山道③日光街道④奥州街道⑤甲州街道

それは「京橋」です。

出題協力者

当会顧問:黒田 涼氏

●家康が江戸に入府したころ、江戸は「京橋」です。江戸は荒廃、葦の生い茂る低湿地帯が広がる、水田を耕作する辺鄙なところになっていた。●家康は「関ヶ原の戦い」で勝利し、1603年に征夷大將軍(60歳)となり、江戸城は徳川家の本城から、天下の江戸幕府の政庁となりました。

●そして、江戸幕府が全国の諸大名に命令し行わせた土木工事が「天下普請」と呼ばれるもので、幕府が諸大名に命令し、水路を拓き、神田の山(今の駿河台)を掘り崩し日比谷の入り江を埋め立て、広大な市街地を造成しました。

●この工事で水路を東にも延長し、日本橋川を拓き橋を架け、1604年には日本橋に五街道の起点が設定されました。これが現在!



# 4. 江戸城の3つの天守閣

(1603~1605)  
**(家康)**

家康:1543-1616  
秀忠:1579-1632  
家光:1604-1651

2:10

## ①家康の天守 (慶長度天守)・・・慶長8年(1603)～慶長11年(1606)



外壁は白漆喰(しろしっくい) 総塗籠(そうぬりこめ) で屋根は鉛瓦葺(なまりかわらぶき) で、まるで「雪化粧の富士山のような！」と書き残されています。

4.江戸城の3つの天守閣

※鉛瓦は土瓦より薄く軽く、錆びてくると色が白くなる。

# 4. 江戸城の3つの天守閣

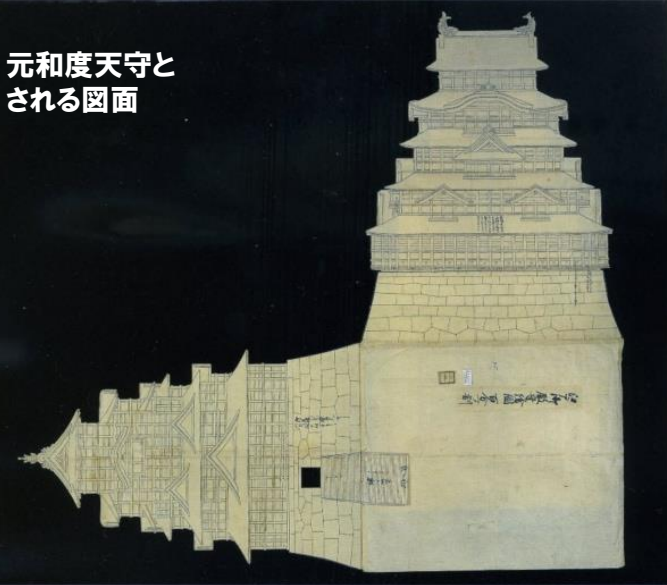
(1605~1623)  
**(秀忠)**

家康:1543-1616  
秀忠:1579-1632  
家光:1604-1651

2:12

## ②秀忠の天守 (元和度天守)・・・元和8年 (1622) 慶長度天守ができて16年後に!

元和度天守と  
される図面



家康が没すると二代将軍秀忠は江戸城を増強するため平川の流れを変え、神田川を開削して隅田川へ放流し、溪谷のようになった神田川を北側の外堀として防御を固めました。そして、元和8年(1622)秀忠は家康が築いた天守を解体し新たな天守(元和度天守)を築きました。それを代々中井家(初代正清)に残っている設計図で確認してみると、なんと

秀忠の築いた天守はほとんど家康の天守と同じで、天守の階数は家康と同じ地上5階地下1階で、天守台の石垣の高さは12.7m、天守の高さは41.5mで合わせると54.2mと家康の天守より少し低かったけども、屋根は鉛瓦葺で外壁は白漆喰(しろしっくい)総塗籠(そうぬりこめ)であり、高さ以外はほぼ一緒だったそうです。

**ここで疑問が発生しました!**



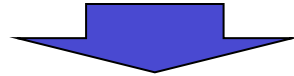
# 4. 江戸城の3つの天守閣

家康:1543-1616  
秀忠:1579-1632  
家光:1604-1651

(1605~1623)  
**(秀忠)**

2:14

**疑問?**⇒同じような天守であったにもかかわらず、なぜ秀忠はわざわざ家康の天守を解体し、新たな天守を築くことになったのでしょうか？



●家康の天守は江戸城本丸の中央部にありましたが、秀忠の天守は江戸城の北の端に築かれました。それによって江戸城本丸には広大な空地ができ、そこに秀忠は巨大な御殿を築きました。豊臣家が滅亡し、大規模な戦がなくなる中、武力に代わるものとして徳川の威信を見せつけるために**巨大で豪華な中央政務の御殿を築く必要**がありました。

●江戸城が政庁として本格的に機能するようになると、政治の中枢を担う政務の間、将軍との謁見の間や諸大名らの謁見控えの間がスペースとして必要となり、本丸を拡張するために天守の場所を移したことになります。

**「新築ではなく解体、移築した。(一部改造)」**



# 4. 江戸城の3つの天守閣

(1623~1651)  
**(家光)**

家康:1543-1616  
秀忠:1579-1632  
家光:1604-1651

望楼(ぼうろう)型:入母屋(いりもや)造り。層塔(そうとう)型:藤堂高虎短縮低コスト

2:16

③家光の天守(寛永度天守)・・・寛永15年(1638) 元和度天守ができて16年後

●元和9年(1623)、家光は第3代将軍になると家康・秀忠から続いた工事の**総仕上げ**を寛永6年(1629)から着手し、石垣・枡形の築造や内郭(うちぐるわ)の諸門の多くを修築し、その後、それまで無防備であった江戸城西北を囲う外壁を築き、赤坂、四谷、市谷、牛込を結ぶ堀と、神田川の水を引くための掘削工事で**三十六見付の城門が整備**されました。

●そして、父・秀忠が亡くなって6年後の寛永15年(1638年)に元和度天守を**解体**し、**同じ場所**に寛永度天守を築きました。家光の築いた天守は秀忠と同じ層塔型天守で5重6階(地上5階・地下1階)でした。天守の高さは秀忠の天守よりも高く44.8m、天守台の石垣の高さも13.8mと秀忠の天守よりは少し高い(58.6m)ものとなり、ここで三代に亘って普請が続けられ**江戸城全容が完成**しました。



家光

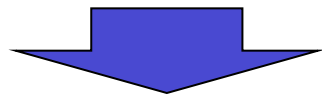
# 4. 江戸城の3つの天守閣

(1623~1651)  
(家光)  
天守+石垣= 全体  
①44.3+14.5=58.8m  
②41.5+12.7=54.2m  
③44.8+13.8=58.6m

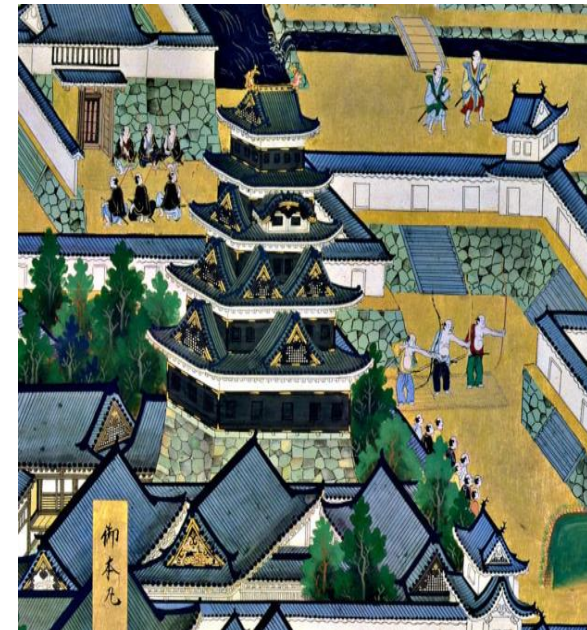
2:18

●寛永度天守は、家康・秀忠の白い外観の城とは異なり、黒いイメージとなっていました。というのは、天守の外装に使われたのは足尾銅山で採れた銅が使われたためです。といっても銅自体は黒くはありませんが、銅の板に塗られた錆止めが黒であり、屋根の瓦も銅の瓦が使われていたため雪化粧の富士のイメージから「**黒い天守**」のイメージとなったわけです。

●足尾銅山では16世紀後半から銅が採掘され、慶長15年(1610)以降は幕府直轄となり、「**寛永通宝**」としてお金にも使われることになりました。



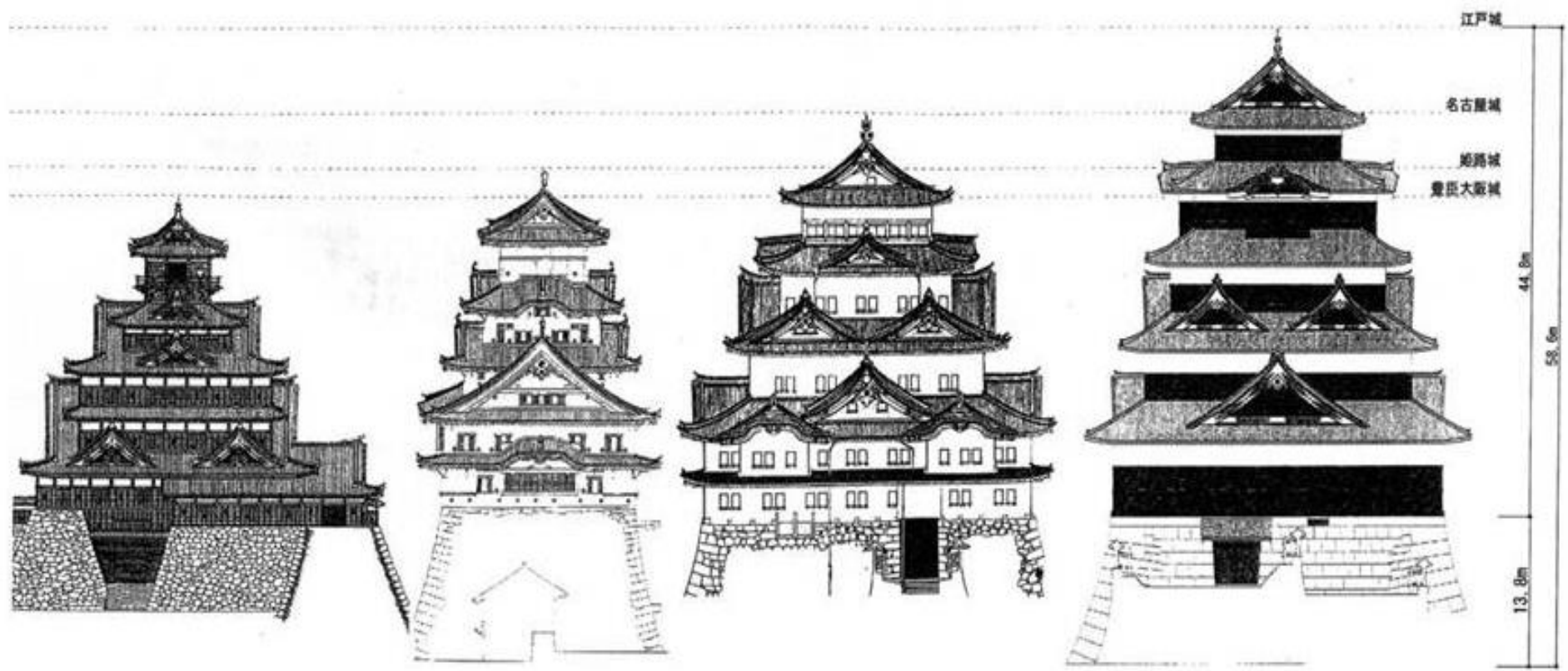
元和度天守と寛永度天守は同規模で、新築ではなく、解体してわずか4ヵ月足らずで、再び組み上げられました。それは、超巨大な天守の荷重で礎石の**不同沈下**が生じたための解体修理だったと考えられます。(三浦先生談) ※先生の紹介は後程！



江戸図屏風(えどずびょうぶ)



# 参考：主な天守閣の高さ比較



豊臣大阪城天守

五重六階、地下二階  
望楼型  
天正13年(1585)頃建立  
慶長20年(1615)焼失

豊臣大阪城(約30m)

※現在の大阪城(41.5m)

姫路城大天守

五重六階、地下一階  
望楼型  
慶長13年(1608)建立  
現在(国宝)に至る

姫路(31.5m)]

31.5+14.1=45.6m

名古屋城天守

五重五階、地下一階  
層塔型  
慶長17年(1612)建立  
昭和20年(1945)戦災焼失

名古屋城(36.1m)

36.1+19.5=55.6m

江戸城寛永天守

五重五階、地下一階  
層塔型  
寛永15年(1638)建立  
明暦3年(1657)焼失

江戸城(44.8m)

44.8+13.8=58.6m

# 参考:寛永度天守「建地割図」

た て じ わ り ず

2:22

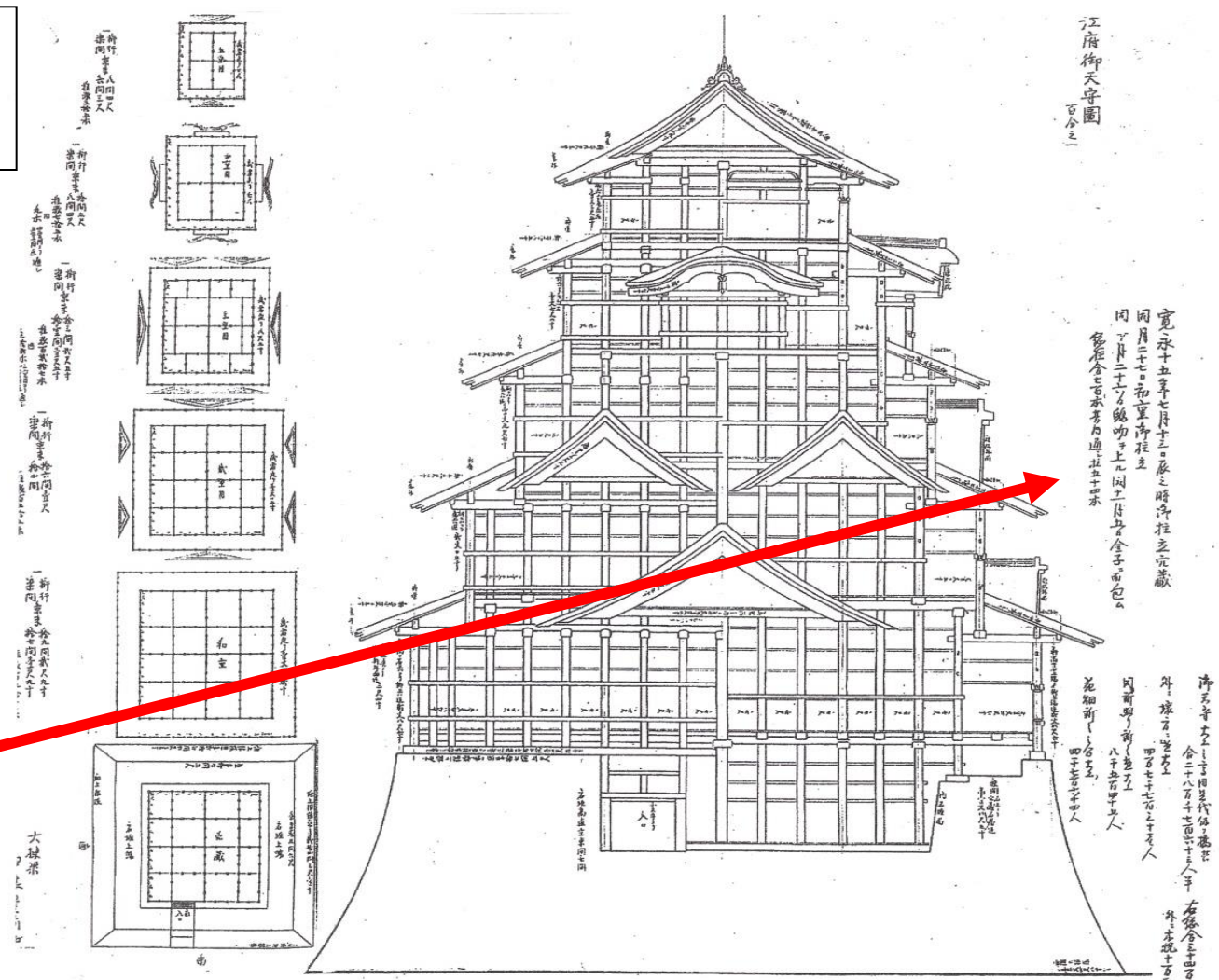
## 寛永度江戸城天守 指図及び建地割図

※地階から五回までの指図  
(平面図)と建地割図(断面  
図・立面図)



この図面によって寛永度  
天守が正確に復元できる  
ことになりました。

※右側に工程が記される  
寛永15年7月13日に  
穴蔵(地階)立柱、  
27日に初重立柱、  
10月26日に鯨上げ、  
11月5日に鯨を金子  
(金の板)で包む。



「江府御天守図」東京都立中央図書館東京諺料蔵

# 参考:寛永度江戸城天守復元図

2:24



## 〈寛永度天守南向き正面図〉

1) 屋根→銅瓦葺 (どうがわらぶき)

2) 外壁→白漆喰塗 (しろしっくいぬり)

※雨よけ銅板 (黒色?)



錆止めの松脂 (まつやに)・ちゃん塗り

※鉄砲狭間・石落としは無い



「天下泰平の象徴」



# 参考：現在の皇居を中心とした東京

2:26



参考：現在の皇居を中心とした東京



# 参考：皇居東御苑に残された台座

2:28

## 万治度天守台

明暦の大火後家綱の命により加賀前田藩  
が築造 寛永度より一間低い。  
万治元年(1658年)竣工

現在の天守台上に天守が建てられたことがないのが歴史ではなく、  
天守を建てるために万治度天守台が再築されたのが本来の歴史である。

三浦先生談



参考：皇居東御苑に残された台座

# 5. 明暦の大火 (1657)

●明暦の大火とは、明暦3年(1657)1月18日から20日にかけて発生した3件の火災の総称です。最初は18日午後2時頃、本郷丸山の本妙寺から出火し、日本橋方面まで延焼しました。

2回目は次の19日午前10時頃、小石川から出火し、江戸城へと進み、天守閣・本丸他、西ノ丸を除くほとんどを焼失しました。

3回目はいずれも江戸の5キロ前後の区域に燃え広がりました。

●その当時の江戸は約80日もの間雨が降らなかったため、乾燥した日が続き、強風が吹き荒れて、火の回りを速めたと言われています。



# 5. 明暦の大火 (1657)

## ●むさしあぶみ

※浅井了意著 万治4年(1661)刊 国立公文書館企画展「江戸城の事件簿」より

明暦3年(1657)1月に起きた江戸の大火を取り上げた物語。江戸からやってきた楽斎坊(らくさいぼう)が京都北野天神で大火の様を語るという趣向の物語風見聞記です。炎の中を逃げ惑う人々を描いた臨場感あふれる挿絵(1月18日)と的確な記述で、災害記録としても高く評価されています。

●挿絵は浅草橋門で起きた悲劇を描いており、牢屋敷を管理する囚獄(牢屋奉行)の石出帯刀は、火が迫ったため囚人を牢屋から解放し避難させましたが、これが囚人の脱走と誤報され、浅草橋門が閉じられてしまいました。折から火も迫り、逃げ場を失った人々は、高い石垣を飛び越えて次々に堀へ飛び込みましたが、堀の下まで距離があり、最初に飛び込んだ者は大怪我をし、次から次へと飛び込む者の下敷きとなって押し潰される者も多数おり、堀が平地になるほどに死体で埋め尽くされたと記されています。(2万人以上死亡)

# 6. 保科正之の英断

●この未曾有の大災害に陣頭指揮で対処したのが、3代将軍家光の異母弟（いぼてい）で、4代将軍家綱（当時16歳）の後見役となった会津藩主保科正之でした。

●天守の再建案が持ち上がり天守台の石垣が造られましたが、保科正之は、被災者の早急な救済と民生安定、長期的展望に基づいた江戸市街の災害復興を最優先の課題と考えました。



保科正之 (1611-1673)

●これまで江戸城天守は、江戸幕府の権威と権力の象徴と考えられていましたが、保科正之は今はその再建のために、国の財産を費やす時節ではないと判断し、先に延ばすことを決定しました。

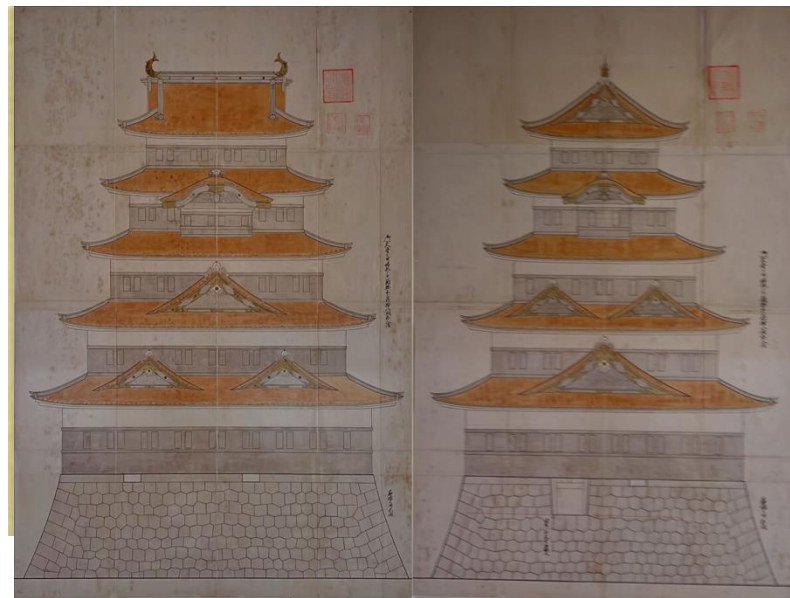
●天守再建に使われるはずであった木材や屋根瓦などの大量の銅は、江戸の町の神社仏閣の多くの部材や屋根の瓦として使われ、そのおかげで江戸の町の復興も進んでいきました。そして、この後は江戸城内の富士見櫓が天守の代用となっていました。



# 6. 保科正之の英断

●この大火は江戸市街のほぼ60%を焼き尽しましたが、これを機に幕府は、江戸の町を防災都市へと構造的に転換させることにしました。道路の拡幅（かくふく）、防火の土手、市中から隅田川東岸に渡る両国橋の架橋、築地地域の埋め立て、両国や江戸橋の広小路設置、大名・旗本の屋敷の移転再配置、寺社の周辺部への移転などが行われました。この結果、江戸の市街地は大きく拡大して、18世紀以後の100万都市に向かって発展することになりました。

●その後、6代将軍・家宣に重用された新井白石が天守の再建策を計画し、図面や模型を作成・提出しましたが、白石の失脚によって、実現されませんでした。右の図は、その時の計画案の図面です。天守閣の正面図、側面図等が残されています。※国立公文書館企画展「江戸城の事件簿」より



# 7. 江戸城再建の時節到来

当分 延引(えんいん)すべし

●今は昔、江戸城天守は再建されないまま365年が経過しました。私たちは保科正之が「**ちとせの松**」でも書き残していますように「今は、その時にあらず」と判断した江戸城天守の再建の時節が今まさに到来したと考えています。

●幕藩体制から明治維新、富国強兵そして敗戦という苦難も乗り越え、目覚ましい躍進を遂げた高度成長期の後のバブル崩壊を経て、今日に至っています。その結果、ながらく黒字を続けてきた日本の経常収支は赤字に陥っており、最近のウクライナ情勢等で原油をはじめとする資源価格が高騰し、赤字が定着化しつつあります。これからの日本を開く可能性を秘めている**台座**。都民の憩いの場で宜しかったでしょうか。**もっと、日本の歴史と文化のために貢献・・・**



# 7. 江戸城再建の時節到来

## ●観光立国・日本は21世紀の国家的課題

そうした中で、日本の国際旅行収支(日本人の海外旅行による支出と、外国人の訪日旅行による収入のバランス)は、一貫して赤字を続け、赤字幅は世界第2位の大きさになっています。その理由は、海外からの旅行客収入が、世界の30位前後という水準で低迷しているためです。

2006年国は、「**観光立国推進基本法**」を制定しました。人口減少・少子高齢化社会の閉塞状況を打破り、急速に経済成長するアジアの観光需要を取り込んで元気な日本を回復するため、観光立国の実現を、21世紀我が国経済社会の発展のための、不可欠の国家的課題としたのです。

日本最初の国立公園の一つ霧島国立公園(1934年)





# 7. 江戸城再建の時節到来

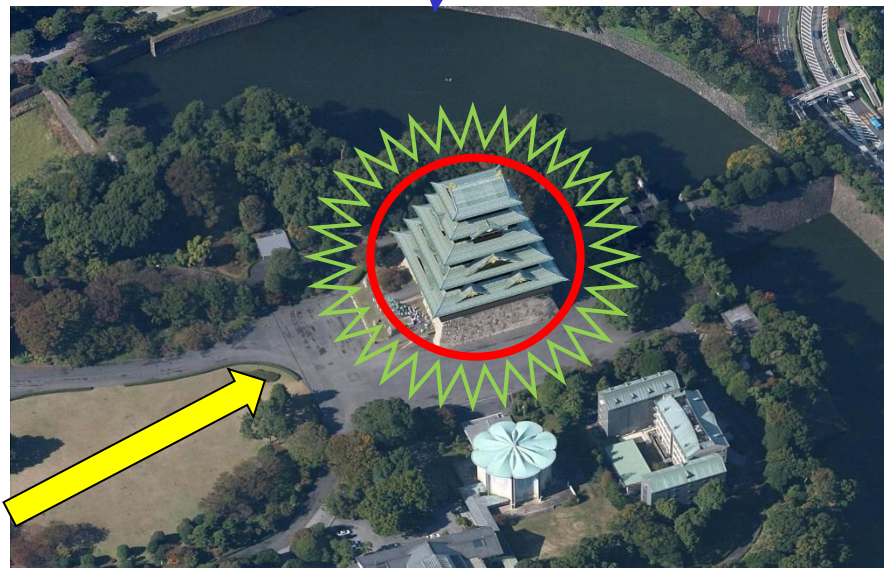
## 江戸城天守CG画像

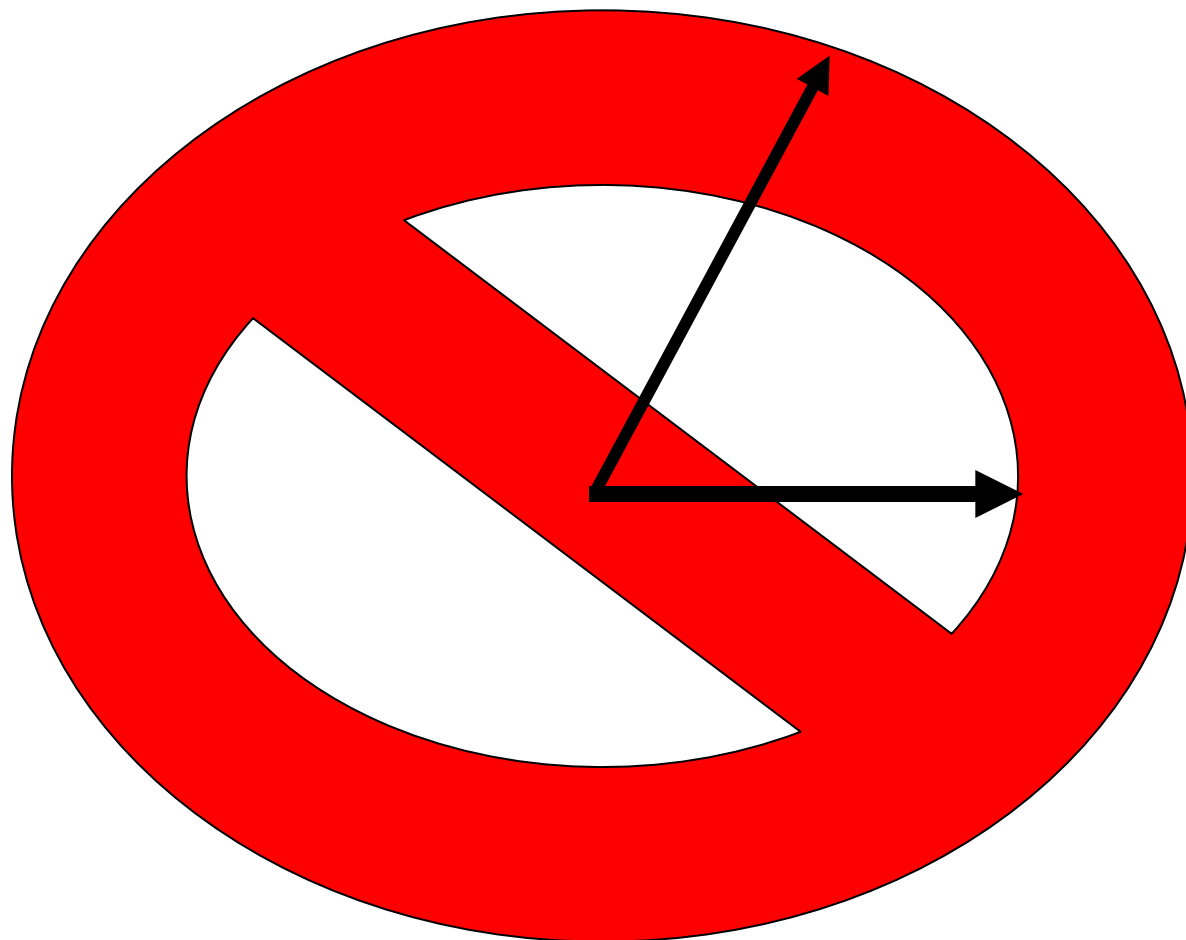
●観光立国のシンボルタワーに！⇒**木造建築技術最高到達点の天守**

観光立国・日本の実現のためには、歴史と伝統にはくくまれた日本の魅力的な文化と技術についての情報を広く海外に発信していくことが求められています。

江戸城寛永度天守は、姫路城の面積の2倍、体積で3倍の規模で、**日本で最も壮大で美しい木造建築の最高傑作**といわれています。

のみならず、姫路城と同じ木組みの柔構造による耐震建築技術は、法隆寺5重の塔の心柱(しんばしら)による耐震建築技術と並んで、地震国日本が世界に誇る**耐震建築技術の基礎**の一端を担ったものとして今日的な意義を持っています。**周りに溶け込んでいますね！**





0:00~0:00

休 憩

---

# 8. 世界の大都市のモニュメント(記念碑)

- その国を代表する世界の大都市には、
  - ・ロンドンのバッキンガム宮殿、
  - ・パリの凱旋門、ベルサイユ宮殿、
  - ・北京の紫禁城、万里の長城、
  - ・ニューヨークの自由の女神 W&Hollywood
  - ・・・歴史と伝統と文化の象徴といふべきモニュメントがあります。



自由の女神

- しかし、世界5大都市といわれる、東京には、この国の歴史と伝統、文化を代表する記念碑と言われるものがありません。
- 観光立国日本の首都東京に、江戸城天守を再建することは、歴史と伝統を代表するとともに、世界を魅了する新たな日本の文化と技術を発信するためのシンボルタワーを建設することになるものと考えます。
- ※東京タワー、スカイツリー、浅草も大事ですが、**古来からの伝統と文化、そして技術のモニュメントが求められている**といえます。



# 9. 歴史的建造物再建への取り組み

●2002年ドイツ連邦議会は、第2次大戦で破壊されたベルリン王宮を再建することを決議しました。首都の中心に歴史的建造物を記録に忠実に再現し、未来志向の文化施設とする考えにドイツ国民のコンセンサスが成立しました。

●ポーランドの首都ワルシャワの市民は、第2次大戦で徹底的に破壊された旧ワルシャワ市街の街並みを粘り強い努力で昔のままに再現し、ユネスコはそれを世界遺産と認定しました。



●フランス・パリのノートルダム大聖堂で起きた火災は2019年4月15-16日にかけて燃え続け、幸いにも負傷者軽傷3人（警察官2人、消防士1人）と少なかったものの、消火は難航したようです。マクロン大統領は再建を約束し、国際募金活動を実施すると表明しました。当局は出火原因は不明としていますが、寄付金総額は8億ユーロとなる見込みだそうです。

# 9. 歴史的建造物再建への取り組み

- 日本国内では、令和元年（2019）10月31日に世界遺産の首里城正殿など6棟が全焼しました。さっそく当局は再建に着手し2026年に再建の予定です。今度はスプリンクラーも備え付けられる予定です。寄付金等53億円超の支援が集まりました。幸いけが人はなく、消防局は火災原因不明とする調査書をまとめました。
- 1657年、当時の江戸の人口は50万人、江戸の大半を焼き、10万8千人が亡くなりました。日本史上最大の火災であり、後にローマの大火・ロンドンの大火とこの明暦の大火が世界三大大火と言われています。
- 幕府は政として、天守再建で国の財産を費やす時節ではないと判断し、被災者の早急な救済を優先し、天守再建を先に延ばす決定をしました。素晴らしい判断だと思います。しかし、考えるに保科正之自身も本当は悔しかったことと思います。この気持ちに報いてあげたいと思います。



明暦の大火

# 10. 天守閣に込められた日本の匠

## 《日本再生の新しい国づくり 木造の「江戸」

日本には、過去の長い歴史が育んだ  
の大火で焼失し、その後、現在に至  
が皇居東御苑に遺されている「江戸  
遺産の一つであります。この木材を  
天守」は、日本城郭建築の最高到達  
だったと言われています。

織田央<sup>(おりたひろし)</sup>林野庁長官は「日本は国土の3分の2を森林が占める  
**世界有数の森林国**であり、その森林の4割が私たちの先人たちが植え  
育ててきた人工林です。現在、その森林の蓄積は人工林を中心に毎年  
6千万立方メートル増加しており、**今まさに利用期を迎えている。**」と日経新  
聞紙上で述べられていました。(※2022年9月27日28~29頁)





# 10. 天守閣に込められた日本の匠



湿度に応じて空気中の水分を放出に優れ、消臭・抗菌効果も期待できま  
クスさせてストレスを緩和させたり、集  
性を上げる効果もあるとされています。  
出を抑え、災害に強くて人に優しい木  
**年カーボンニュートラルに伴うグリーン**  
ともなります。

私たちは、日本各地に広がる香り豊かな純国産の木材を使い、「江戸城寛永度天守」を、伝統工法により再建することを通して、首都東京から新しい技術を活用した、中高層の**木造建築物の誕生を後押し**し、都市の木造化を目指すことで、SDGsに積極的に貢献します。そして、「江戸城寛永度天守」の美しい立ち姿を、世界に発信することが出来れば、それは魅力と活力に溢れた国づくり「観光文化立国・日本」の新しい“道しるべ”にもなると思われます。

# 11. 江戸城天守を再建するために

**令和度**の江戸城天守は  
江戸幕府が財政上の理由で頓挫した計画を  
実現させるもの

天守は江戸城の本丸にあってしかるべきもの

日本の**首都の象徴**として

日本の**伝統的木造建築技術の発展の最高到達点**にあった

江戸城天守を

日本が世界に誇る**木造建築技術**と

世界最高の建材である**檜**を用いて建築する



三浦正幸  
広大名誉教授

# 11. 江戸城天守を再建するために

●寺村副理事長コーディネートによる事業構想委員会での三浦先生の見解

「寸分違わぬ再建はそもそもありえない！」なかでの再建のポイント

1. 万治度天守台は寛永度より1間（約2m）低い・・・歴史上の事実
2. 令和度天守を支えるのは人工地盤・・・不動沈下しなかった天守無し
3. 外壁は耐震壁に変更・・・・・・・・令和の木造新技術を内側に活用
4. 超大径材には接（は）ぎ柱・・・・・・・・多くの木材を束ねて作った集成材
5. 防火・・・・・・・・火災警報装置とスプリンクラー必須
6. 階段と昇降設備・・・・・・・・エレベーター（緊急搬送他）確保可
7. トイレと空調設備・・・・・・・・トイレ設置困難、空調は可能
8. 最大収容人数・・・・・・・・年間300万人収容可能
9. 皇居への見通し対策・・・・・・・・南・西側窓は常時閉鎖
10. セキュリティ・・・・・・・・所持品検査は必要



三浦正幸  
広大名誉教授

※~~江戸城天守を再建するために必要な事業費は約100億円と推定されている。~~



# 12. 政府の取り組み(国会では)

●参議院議員松沢成文(しげふみ)氏は予算委員会で江戸城天守閣の復元について質問し、安倍総理大臣から前向きな回答を得た。(2014.11.4)

☆当時、安倍晋三元総理大臣の答弁

- 1) 事業主体は誰か、財源、建築上の問題、遺構保全への影響等様々な課題がある。
- 2) 皇室のプライバシーの維持保全、周辺の景観への影響等の問題がある。
- 3) 東京が世界に文化的な発信を行うことも重要。京都だけではないと思ってもらうことも大事。



●北の丸の日本武道館は、1961年正力議員を会長に、建設への署名活動を国会議員に行い525名の署名を集め、翌年には財団法人が設立され、建設に取り掛り、東京オリンピックでは柔道競技に使われました。



●現在、皆様の協力を得て、国会の代表者(衆議院議長・参議院議長)に向けての、請願署名の活動を行っています。※後で詳しく!

# 12. 政府の取り組み(宮内庁)

## ●明日の日本を考える観光ビジョン構想会議を踏まえ 宮内庁官房秘書課発表(2016年3月30日)

- 案内板等のガイダンス機能の拡充
- 三の丸尚蔵館の増築
- 江戸城模型を設置

## ●寛永度天守(模型1/30)

- ・2020年9月  
より一般公開  
(皇居東御苑)
- ・AM9:00～  
～PM5:30  
(冬場3:30)  
入苑15分前迄
- ・休苑日は月  
と金が多い



江戸城天守復元模型(縮尺1/30)

## 12.

## 政府の取り組み(国土緑化運動)を(植樹祭)

アーバーディ

(Arbor Day)を紹介したことがきっかけ!

明治28年(1895)

&lt;

「全国植樹祭」&gt;

日本の  
に恵まれ  
えます。

植樹祭



●先の林  
国土の3  
ているの  
その森林

です。全国植樹祭は、国土緑化運動の中心的な行事として昭和25年(1950)以来、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、全国各地から緑化関係者等の参加を得て、両陛下によるお手植えや参加者による記念植樹等を通じて、国民の森林に対する愛情を培うことを目的に毎年開催されています。

●国土緑化運動は、国土を森林で覆い自然の保護を推進しようという社会的な運動です。気候や治山治水の悪化を防止し、森林資源の枯渇を防ぐという目的があります。世界的に見ると、1890年代のアメリカが、国土緑化運動の発祥の地になるようです。





# 12. 政府の取り組み(皇居では)

- **日本では⇒「国土緑化推進機構」**が設置され、山梨で植樹祭が昭和25年(1950)開催されて以来、全国的に緑化運動は活発化し今日に至っています。植物に造詣の深かった昭和天皇にちなみ4月29日(現在5月4日)を「みどりの日」として国民の祝日になりました。みどりの月間(4/15~5/14)
- 「みどりの日」の名前の由来にもなった昭和天皇は、ご幼少の頃から自然に親しまれ、皇居の自然保護にも大きな影響を与え、武蔵野に生育する自然状態の植物を移植し、皇居の森の再生が行われてきました。
- 日本の被覆率はOECD加盟国の中ではフィンランド、スウェーデンに次いで3位(68.4%)と高水準に位置しています。森林蓄積量はこちら数十年増え続けておりますが、反面増加しつつある放棄林が土砂災害等の発生原因になる可能性を秘めています。この森林を守るべく努力も必要ですが、増えていく木を優良な材木として活用していくことも求められています。
- まさに、中高層の**木造建築物の誕生**を後押し、そのシンボルとしての意味を呈するのが、これからの**江戸城の木造の姿**ということになります。

# 12. 政府の取り組み(2019年大阪サミット)

お城はシンボリックで  
モニュメント(記念碑)として  
の風格があります。

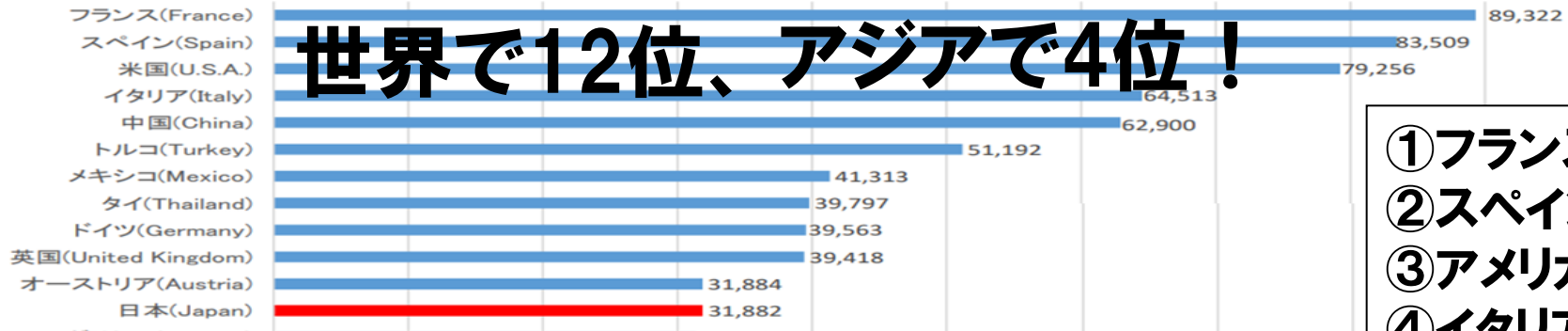


G20 OSAKA SUMMIT 2019



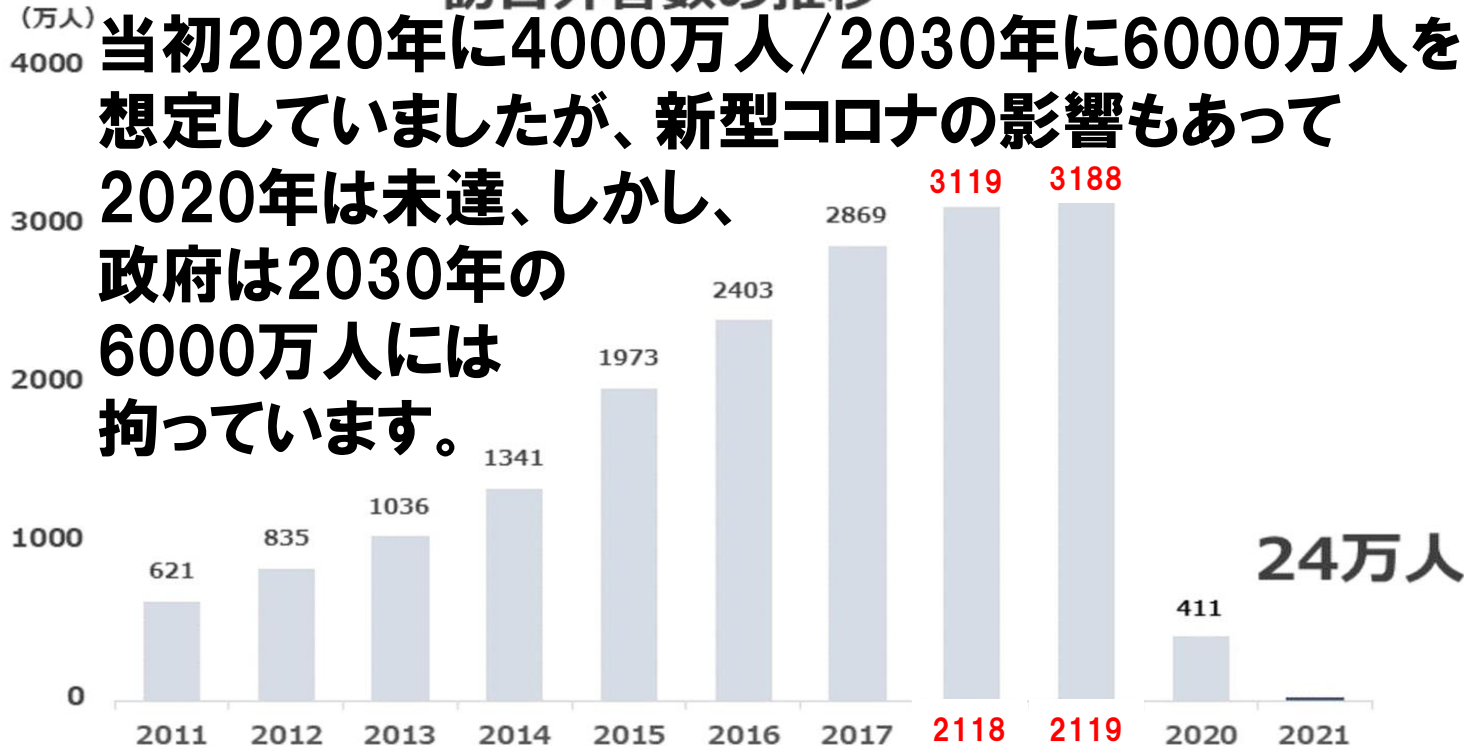
# 13. 世界各国への外国人訪問者数

2019年上位40社日本政府観光局



- ① フランス
- ② スペイン
- ③ アメリカ
- ④ イタリア
- ⑤ 中国 (1)
- ⑥ トルコ (2)
- ⑦ メキシコ
- ⑧ タイ (3)
- ⑨ ドイツ
- ⑩ イギリス
- ⑪ オーストリア
- ⑫ 日本 (4)

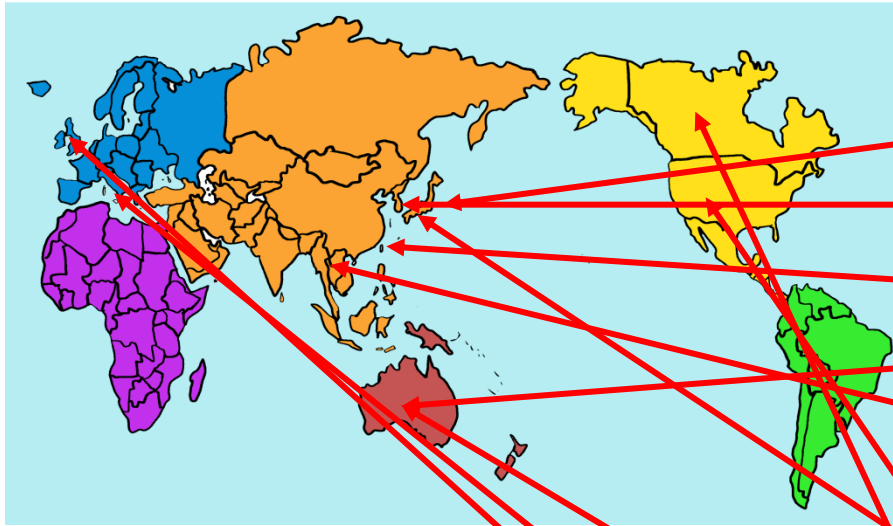
訪日外客数の推移





# 14. コロナ収束後に行きたい国とは

2021年10月 日本政策投資銀行(株)&公益財団法人日本交通公社(JTBF)



## 1) アジア居住者による回答

- 1位 日本 (67%)
- 2位 韓国 (43%)
- 3位 台湾 (28%)
- 4位 オーストラリア (27%)
- 5位 タイ (26%)

## 2) 欧米豪居住者による回答

- 1位 日本 (37%)
- 2位 アメリカ (33%)
- 3位 オーストラリア (28%)
- 4位 カナダ (28%)
- 5位 イタリア (25%)
- 5位 イギリス (25%)

●韓国、中国、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、アメリカ、オーストラリア、イギリス、フランス、インド、ベトナムの14地域の7,335人を対象に「次に海外旅行したい国・地域」を調査したら、何と! こちらも! 単なるおもてなしでなく、効果的サービスが求められます。

# 15. 「歴史まちづくり再生ゾーン」の取り組み

## ●日本都市計画学会・江戸城再建特別調査委員会

委員長 伊藤 滋 (しげる) 氏

早稲田大学特命教授  
慶應義塾大学大学院客員教授  
東京大学名誉教授 工学博士  
1931年8月20日生 (91歳)

・このままでは東京は世界の都市間競争に勝ち残れない。

・東京に品格ある国造りのシンボルを造ろう。

・姉妹都市ベルリンは先を行っている。

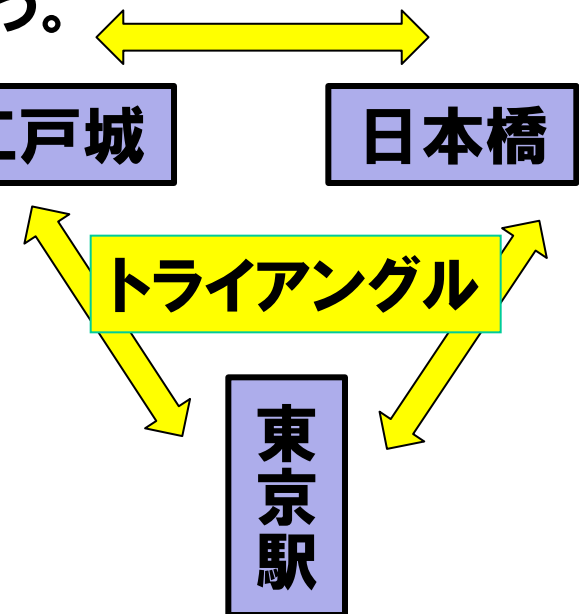
江戸城

日本橋

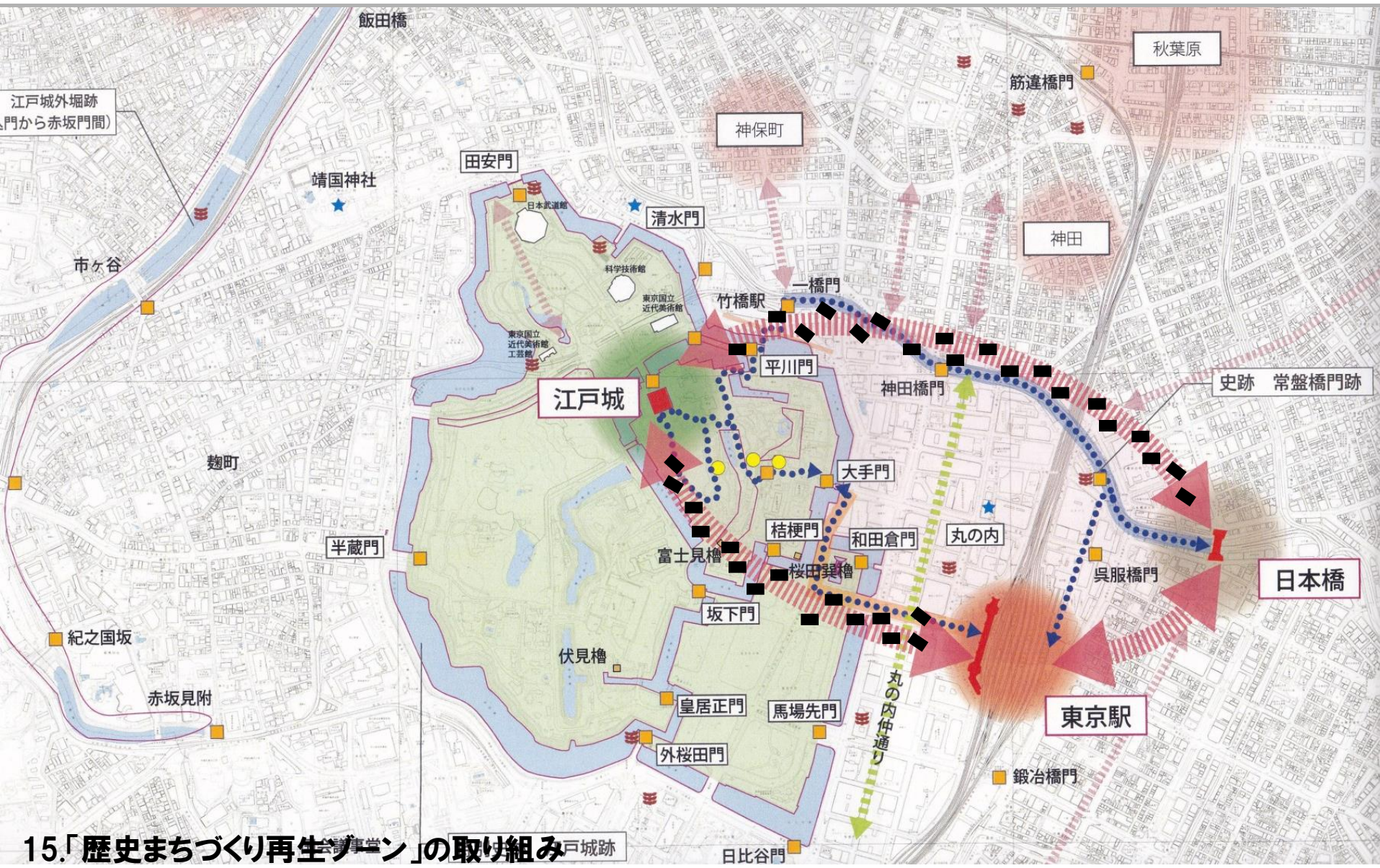
・日本橋を中心に首都高速道路を地下に

入れて、江戸城、日本橋、東京駅を結ぶ

歴史的回遊ゾーンを造ろう。









# 15. 「歴史まちづくり再生ゾーン」の取り組み

東京駅復興(4.26.12.10)  
丸の内線(4.26.12.10)



丸の内駅舎改修費用は500億円(空中権の移転という制度を活用)

15. 「歴史まちづくり再生ゾーン」の取り組み

# 15. 「歴史まちづくり再生ゾーン」の取り組み

首都高地下化（国土交通省有識者会議／日本橋ルネッサンス100年計画委員会）

日本橋（2040年完成後の姿）







ですね。大きな画面にCGを駆使して、日本列島誕生の頃からが映し出されています。大陸と陸続きだったころの日本、大きい恐竜が現れて、見ていた子供たち戦々恐々です。・・・そして



# 16. まとめ (私たちの想い・夢)



そして5階、眼下に現在の東京（東向・北向）が広がります。  
不思議な国日本！太古からの独自の生態系で魅力一杯！



1. 首都東京に日本人
2. 皇居東京

請願者氏名

同上住所

《ご署名は個人情報

●取扱団体：認定NPO

〒101-

力に溢れた国づくり「観光立国・日本」の新しいランドマークになることでしょ。

令和の世の「江戸城天守」建立を通して、次の世代がこの国の未来に夢と希望を持ち、日本に生まれたこと、日本人であることに感動と感謝の念を抱き、それをお互いに確認し共有できる場が提供できると信じています。日本人の為の『未来遺産』を創り上げる事業と捉えております。

以上を踏まえて、下記の請願を致します。宜しく願い致します。

◎請願項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 首都東京に日本の伝統と文化のシンボルとして江戸城天守を造り、日本人のアイデンティティーを取り戻し、それを後世に伝える。
2. 皇居東御苑内の現在の天守台座の位置に江戸城天守を木造で再建する。

|       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 請願者氏名 | 江戸 一郎                                |
| 同上住所  | 〒101-0065<br>東京都千代田区西神田2-5-7神田中央ビル5F |

《ご署名は個人情報保護法に基づき厳重に保管し、署名に関わる目的以外には利用致しません》

●取扱団体：認定NPO 法人江戸城天守を再建する会（お問い合わせ先事務局 浅井・山本 TEL:03-6423-1882）

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-5-7 神田中央ビル 505

衆

私たち  
お願いし  
多くの方  
この皆  
かける  
出する  
その  
ら東京  
ます。セ

※注1.衆議院議長と参議院議長の両議長宛に別々に必要となります。ご面倒ですが2通お願いします。

※注2.それぞれ30万通を想定してご協力を賜っております。

# 16. まとめ(江戸城天守を再建する会)<sup>3:36</sup>



●寄付のお願い(一口千円から)

●会員(仲間)募集しています。  
個人(正会員年会費1万円)  
(賛助〃年会費3千円)  
※法人会員も別途あります。

松平特別顧問 太田会長



松沢参議院議員

認定NPO法人  
江戸城天守を再建する会  
理事長 島田昌幸

待っています！

副理事長秋山長司  
副理事長寺村信行  
専務理事初鹿彰信  
専務理事百瀬光正



ありがとうございました。

### 《参考文献》

広島大学名誉教授三浦正幸「江戸城天守 令和の築城とは」  
東京大学名誉教授伊藤 滋「江戸城寛永度天守再建調査検討委員会報告書」  
太田道灌18代子孫 当会会長太田資暁「商工会議所講演録」